

花あっちこっち

オジギソウ（お辞儀草）

花ことば：感受性



原産地は南アメリカで世界中に分布し、日本へは江戸時代後期にオランダ船によって運ばれてきたと言われている。夏から秋にかけてピンク色の可憐なボウル玉の花が咲く。最近はずっかり見かけなくなってきたが、学校等の花壇の草花に混じって見ることができる。

葉は羽根状で、指先で触ると瞬時に小葉が先端から根元へ順次閉じて行き、最後は葉茎ごと閉じて下向きに垂れ下がり、まるでお辞儀をしているかのような、不思議な現象が見られる。原理は葉に刺激が加わると、茎の特定部位に刺激されたカリウムイオンを含む化学物質が放

出され、それにより液胞から水を排出させ、細胞の圧が失われ収縮（閉じる）行動をする仕組み。また、夜になると葉を閉じて眠り始める就眠行動をする不思議な草花である。

耳寄り情報

天狗連 横浜落語会

会長 湊家 恋路 こと 石井 俊和

アマチュア演芸者の会で、落語の他、口笛、三線、マジックなどの演者もいる。年1回「横浜にぎわい座」で公演を行っている。今年は、10月21日土曜日13時開演で、木戸銭は1000円。その他、老人会、一人暮らし高齢者食事会などの依頼による出前落語を行っている。また、地区センターや地域ケアプラザ等の主催による「落語を聞く会」なども受けている。

落語は古典落語が中心だが、悪質商法や振り込め詐欺の手口と対策を紹介する創作落語を演じる者もいる。主に小中学生を対象にした落語教室も行っている。



問い合わせ先 石井 俊和 ☎・FAX (301)8840

まちかど

あの町この町

⑩ 三ツ境（みつきょう）

鎌倉郡阿久和村が明治22年（1889）に中川村大字阿久和となり、昭和14年（1939）の横浜市編入の際、阿久和町となった。三ツ境は、昭和37年5月にこの阿久和町から新設した町で、「三ツ境」のいわれは、三つの村の境を意味するとか、三ツ境の「境」は「橋」であるとか、仏教の「蜜経」にちなむ、などの諸説がある。

区内を流れる阿久和川の源流が三ツ境商店街付近にあって、現在のように開発されるまでは、草深い森林の中に鎌取池と称する灌漑用の溜め池があった。昭和30年頃までわずかにその形を残していたこの池は、現在は無くなって、池の主になつたる言い伝えと「鎌取池」の名は今も語り継がれている。

町の北側を厚木街道、相鉄本線が通り三ツ境駅があり、南西側を瀬谷柏尾道路が通る。



昭和 32 年(1957)に、阿久和町から遷座された「白姫神社」の祭りが、毎年 8 月上旬の土・日曜日に、盛大に開催される。